

全東京写真連盟
撮影会写真コンクール
入賞作品集



審査対象 大井ふ頭中央海浜公園モデル撮影会

撮影日 2023年04月23日

審査日 2023年06月11日

審査員: HARUKI 先生



金賞
「はつらつ娘」
荒井 秀雄 様
モデル 瓦林 桜

審査員：HARUKI先生 講評

良い意味において “一昔前のポスター” のような印象です。世代によっては少し伝わりにくいかもしれませんが、この国の文化や技術、経済など元気が良かった1970年代～1980年代、あの頃のアイドルや女優を使った広告ポスターはキラキラしていました。モデルさんの表情やポーズ、そして光線から当時の写真を彷彿させ、長く暗かったコロナ禍が続いた今、自然と心が惹かれてしまう前向きで明るい写真です。ありそうで無かったタイプの作品、素敵です！！



銀賞
「空に向かって!!」
鵜飼 典彦 様
モデル Sakura

審査員: HARUKI先生 講評

比較的至近距離からややワイド系レンズでしょうか。青と雲が混じった空、そしてその空が反射したオブジェで背景のすべてを埋め尽くした中へモデルさんを配置。ローアングルから見上げたモデルの傾いた構図に、見る側の不安定感を刺激される新しさを感じる写真ですね。個人的には画面右下の足元も入れて欲しかったのですが、そこは大人の事情なのでしょうか？（笑）



銅賞
「木もれ日」
堤 博史 様
モデル 瓦林 桜

審査員：HARUKI先生 講評

優しい良い写真です！！タイトルにあるように半逆光での“木もれ日”がモデルさんの衣装に映り込み、風が木々を揺らして葉がやさしく動きなでるような葉音が聞こえてきそうです。とても素直な描写表現の写真ですが、かなりの露光オーバーだったのが惜しいです。逆光などではたいがい＋（オーバー）露光にしますが、あまりいきすぎてしまうと全体が腰のない印象になってしまいますのでご注意下さい。金賞作品と同じモデルさんなのですが、前者での澆刺とした感じとは真逆の静かに思い耽るような表情に彼女のモデルとしての素材の良さと資質をととても強く感じます☆



入選
「青春RUN」
小倉 良二 様
モデル 吉野 愛加



入選
「How deeply do you love?」
門間 正之 様
モデル 詩音



入選
「透明な光に映える」
佐藤 和明 様
モデル Sakura



入選
「（無題）」
片田 広明 様
モデル 加藤 季恵



入選
「マリオネット」
岸野 孝博 様
モデル Sakura



佳作
「影と陽と」
深野 武雄 様
モデル Sakura



佳作
「一点の光」
滝本 憲一郎 様
モデル Sakura



佳作
「座して福を待つ」
米沢 健二 様
モデル 瓦林 桜



佳作
「イキイキと楽しみながら」
斎藤 貴生 様
モデル 吉野 愛加



佳作
「こもれび」
田沼 靖信 様
モデル Sakura



佳作
「新緑の頃」
内藤 勝之 様
モデル Sakura



佳作
「運河のほとりにて」
逢坂 誠俊 様
モデル Sakura



佳作
「見つめる瞳」
岸 寿生 様
モデル Sakura



佳作
「スポットライト」
三井 直人 様
モデル 根本 美里



佳作
「新緑のほほ笑み」
村岡 雅之 様
モデル 加藤 季恵



次点
「モノレールの走る風景」
田中 直久 様
モデル 根本 美里



次点
「水とのたわむれ」
湯原 章綱 様
モデル 吉野 愛加



次点
「樹の下で舞う」
新井 潔 様
モデル 根本 美里



次点
「ポーズ」
山田 栄一 様
モデル 瓦林 桜



次点
「緑に映えて」
高橋 壯太 様
モデル 詩音



次点
「おとぎの森」
松岡 達雄 様
モデル 瓦林 桜



次点
「木漏れ日の中」
猿田 善和 様
モデル 根本 美里



次点
「嬉しい予感」
佐久間 裕史 様
モデル 詩音



次点
「まなざし」
片桐 研一 様
モデル 根本 美里



次点
「In the woods」
五島 隆夫 様
モデル 加藤 季恵

【 撮影時の光の使い方を試してみる 】

全東京写真連盟の皆さん、こんにちは。

ジメジメした梅雨時ですがいかがお過ごしですか。皆さんのことですので梅雨なんかには負けないで撮影をされているものと信じております（笑）

さて、撮影会でのライティングというところ大勢での撮影ですのでなかなか自分の思うようにはいかないことも多いでしょう。皆と同じライティングで撮って、その中で出来る事のアンクルやシャッターチャンスの違いでの勝負というのも魅力の一つではあります。基本的にはレフ板からの光線を当てての撮影が一般的には多いかと思えます。レフ板も銀レフ、白レフ、時には金レフ（日本人の肌色にはあまり向いていませんが）を使用したり、そしてレフ板のように光を当てるのではなくて逆に太陽光を覆ってのデュフーザーでの撮影という手法もあります。ボクたちプロの間では光線が強い場合によく使うのがこのデュフーザーです。敢えて光線を遮っての表現が向いている場面もあります。モデルさんの顔まわりを曇り日のようなフラット光線にする等。そしてストロボを補助光として使う日中シンクロ撮影もあります。昔はなかなか難しい撮影技法でしたがデジタルになってからはカメラ側の機能やストロボ性能が良くなっていますし、なんといってもすぐに確認チェックが出来るのですから今の時代は天国ですね。

普段はレフ担当さんが決めた「レフ板」でしか撮ったことがないという方々。途中で係の人にレフ板を変えてもらったり、自らストロボを補助光として使って効果の違いを出してみるのも良いかと思えます。

皆さんと同じ撮影条件でありながら、光コントロールで差を付けてちょっと違った表現を試みてもみるのも楽しいですよ☆

HARUKI